

報道発表資料

相談解決のためのテストからNo. 195

令和7年4月23日
独立行政法人国民生活センター

消費生活センター等の依頼に基づいて実施した商品テストの結果をご紹介します。

表底が摩耗・破損しやすい靴

1. 依頼内容

「2カ月ほど使用した靴の一部が破損した。商品に問題がないか調べてほしい。」という依頼を受けました。

2. 調査

当該品は、男性用のスリッポンと呼ばれる靴紐がないタイプの靴で、2カ月ほど着用していたところ、靴底の破損に気付いたとのことでした（図参照）。

当該品の表底を観察したところ、右足つま先の親指側が大きく欠損し、小指側も削れていました。両足とも、かかと後部に摩耗がみられ、ブランド名や溝など表底に施されたデザインの模様が消えたり、小さな穴が空く等していました。また、履き口やかかと部が変形しており、内側生地の破れもみられました。底材をフーリエ変換-赤外分光光度計（FT-IR）で調べたところ、ポリ塩化ビニル樹脂を主体とするものと考えられました。

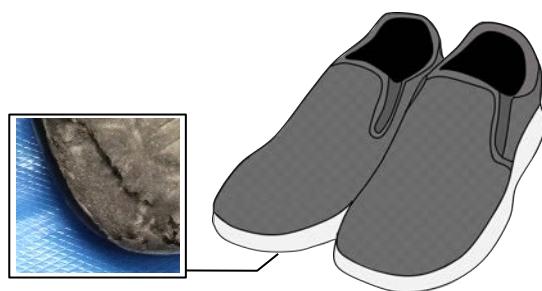


図. 当該品のイメージと損傷の様子（一例）

未使用の同型品を用いて、表底の耐久性を調べました。

ISO20871「履物 - 表底の試験法 - 耐摩耗性」に基づき、同型品の表底の耐摩耗性を調べたところ、ISO/TR20880「履物 - 靴材料の性能要件 - 表底」における、カジュアルシューズの性能要件^(注1)を満たしていませんでした。なお、表底から切り出した試験片の断面をみると底材は均質ではなく、大きな空洞がみられるものもありました（写真参照）。



写真. 耐摩耗性試験の試験片の断面

また、ISO17707「履物 - 表底の試験法 - 耐屈曲性」に基づき、同型品の表底の耐屈曲性を調べたところ、こちらもカジュアルシューズの表底の性能要件を満たしていませんでした^(注2)。

以上のことから、当該品を同型品と同等の品質であったとみなした場合、使用によって表底の摩耗や亀裂の発生など破損が起こりやすいものであったと考えられました。

(注1) 表底の密度が 0.9 mg/mm^2 未満の場合、重量損失 170 mg 以下。カジュアルシューズとは、外見上は、一般使用目的のスポーツ・レジャー用靴に類似しているが、余暇の活動に適する靴を指す。

(注2) 屈曲回数3万回で切り込みの成長は 5.0 mm 以下、自発的亀裂が生じないこと。同型品は、3万回屈曲を行った時点で切り込みの成長は 0.5 mm であったが、その他に自発的な亀裂が生じた。

3. 解決内容等

依頼センターがテスト結果を販売事業者に説明したところ、相談者に商品代金が返金されました。

本件問い合わせ先

商品テスト部：042-758-3165